

# 山崎賞に川崎東北大教授



川崎雅司教授

材料科学技術振興財団  
(東京)は、科学技術の

向上や普及に貢献した研究者に贈る「山崎貞一賞」の本年度受賞者に、東北大原子分子材料科学高等研究機構の川崎雅司教授(四)ら六人を選んだ。贈呈式は十六日、都内で行われる。

川崎教授は二〇〇四年、従来の素材より安価な酸化亜鉛を用いた青色発光ダイオード(LED)の開発に成功した。酸化亜鉛によるLEDは理論的に可能だったが、良質な結晶合成が難しかった。

た。川崎教授は温度調節など独自の手法で結晶を安定させ、試作品も製作した功績が評価された。消費電力が蛍光灯に比べて少ないなど環境負荷が小さい酸化亜鉛LEDは、照明や信号機などへの応用が期待されている。川崎教授は「大変重みのある賞をいただき、

責任を感じている。実用化に向けて、研究者としての努力を続けていきたい」と話している。同賞は元TDK社長で財団の初代理事長を務めた故山崎貞一氏の功績をたたえ、〇一年に創設された。東北大ではこれまで三人の研究者が受賞している。